上野則男のブログ　№60　2013 年 9 月

▶ **「公共事業問題とソフト保守問題は同じだ！！**
公共事業の改修問題は、以前にも取りあげました。改修が新設よりも予算的に大きくなっているということで、この点を含め、ソフト問題と全く同じなのです。残念ながら「公共事業問題に学ぶ」ということはあまりできないようです。

▶ **保守業務にも「２０％ドクトリン」が必要！！**
「２０％ドクトリン」というのは、Google 社が設けた準制度で、これにより数々のヒット事業が生まれたというものです。ソフト業界にもこれが必要だ、という私の主張です。

▶ **菱食の「大魔神」廣田正様から教わること**
私の大恩人であります廣田元菱食社長との再会記です。たいへん刺激になりました。

▶ **放射線問題の決定版が出ました！**
当メルマガでも再々とりあげました「低線量放射線は有益である」という主張の再論です。
私がファンである渡部昇一先生と放射線医学の権威中村仁信先生の対談集の紹介です。

▶ **「南京事件」の総括です！**
「世界に情報を発信する会」事務局長茂木弘道さんからのレポートの紹介です。このテーマも当メルマガで取りあげてきたものです。

▶ **渡部昇一さんの意見はどうなっているのでしょう？？**
前掲の対談集を渡部昇一先生が出されたのを契機に、私とほとんど意見が一致している先生の意見を過去１年分の雑誌「致知」の寄稿から整理してみました。
私は取りあげていないテーマである靖国問題に対する先生の意見をご紹介しています。

▶ **今年の夏休みの成果は？**
私も我が家も毎年夏休みはとりませんが、夏の間の休みの日に何をしたかのご報告をしました。ＤＩＹの成果です。

▶ **「はだしのゲン」は何が問題になっている？**
私としては突然知りました当問題について、「これは何の問題なんだろう？」と少し探求してみた結果のレポートです。
結構大事なことが分かりました。

371　公共事業問題とソフト保守問題は同じだ！！

№60　2013 年 9 月

【このテーマの目的・ねらい】
目的
- 公共事業の補修問題の重大性を知っていただく。
- ソフト保守業務は、
- 公共事業と全く同じ問題を抱えていることを知っていただく。
- 両者とも何とかしなければいけないなと思っていただく。

ねらい
- 公共事業投資が適切な方向に運営されるように見守っていただく。
- ソフト保守業務が改善されていくようにご尽力いただく。

公共事業は大きな曲がり角に来ています。
目ぼしい新規事業がなくなってきているのに対して、過去に建設された道路や橋が年限を経過して大がかりな補修か建て替えが必要になっているのです。

図表　建設後５０年以上を経過する施設の割合（推計）
出典：２０１０．１「立法と調査」誌掲載
「公共事業を巡る最近の動向と今後の課題」
国土交通委員会調査室　田中利幸氏

図表２　建設後50年以上を経過する施設の割合（推計）

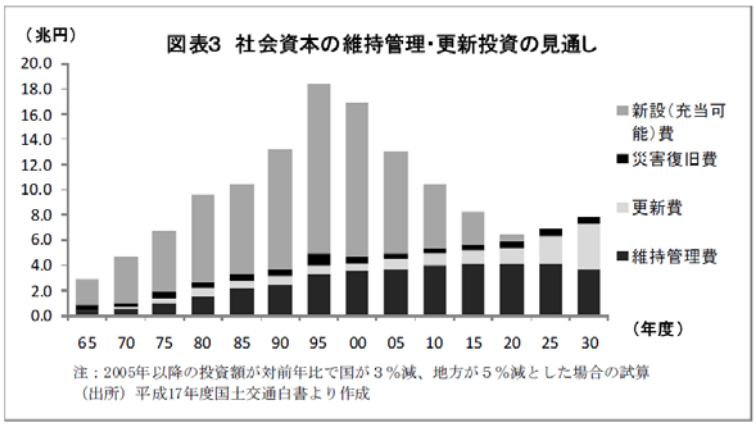
事業分野	2006(H18)年	2016(H28)年	2026(H38)年
河　川（水門）	１０％（800施設）	２３％(1,800施設)	４６％(3,800施設)
道　路（橋梁）	６％（8,900橋）	２０％(28,700橋)	４７％(68,200橋)
下水道（整備延長）	２％（6,300km）	５％(18,700km)	１４％(55,500km)
港　湾（岸壁）	５％（250施設）	１４％(650施設)	４２％(2,000施設)

注：括弧内は建設後50年以上を経過する施設数
（出所）財政制度等審議会財政制度分科会資料（H20.11.26）より作成

この問題は、当ブログでも 2010 年 5 月の「公共事業に「隠れ負債」？システムは？」で取りあげました。

民主党政権で「コンクリートから人へ」というスローガンの下に公共事業の削減が行われました。（10 年度の予算では公共事業費を 2 割減らすなどしました）

以下の図表は、社会資本全体で必要な維持管理費と更新費の合計が 2015 年くらいに新設費を上回り、急速に新設の余裕がなくなることを示しています。（出典：前掲）



注：2005年以降の投資額が対前年比で国が３％減、地方が５％減とした場合の試算
（出所）平成17年度国土交通白書より作成

しかし自民党政権になって、その見直しがされています。相変わらず、新規事業を期待する建設族がいる半面、補修の必要性を訴える正当派もいて、この問題が社会的関心事になっています。

現実に先般来の豪雨被害で、補修や建て替えの遅れによって被害が大きくなった例なども紹介されています。

この公共事業の補修問題は、当社の現在の主力ビジネスであるソフト保守領域の問題とまったく同じなのです。

その対比を以下の表にしました。

両者の問題点の共通性

項目	公共事業の問題点	ソフト保守業務の問題点
新規工事の減少	目ぼしい新規事業がなくなってきている	既存事業では情報システムは行き亘っている
巨大な補修の必要性	補修の必要性がある物件が莫大ある	過去に開発された多種多様の情報システムが、多くの保守の必要性を抱えている
補修への予算投入	補修は目に見えず「票にならない」ので優先度が低い	保守は後ろ向きの業務と思われていて投資がされない
補修費用の大きさ	新設よりも費用が大きくなっている（首都高速道路は年間 9000 億円の補修費がかかっている）	産業界平均で開発費に対して５割増し（全体の６割）ないし４倍（全体の８割）が保守費用である
補修の有効性	適切な補修をすれば、供用期間を延ばすことができる	保守方法が適切であればソフトの寿命を延ばすことができる
補修の目利きの難しさ	新設よりも補修の方が技術的に５倍難しい	新規開発よりも保守業務の改善は難しい
補修の専門家の不足	しかし補修の目利きのできる専門家が不足している	保守の改善の専門家はほとんどいない

ソフト保守業務とは以下のような理由で既存のソフトウェアに手を入れたり付け加えたりするものです。

- 組織や制度が変更されることに対応する。
- 商品・サービスの変更に対応する。
- 業務の実施方法が変更されることに対応する。
- システム利用者の思考や習熟度の変更に対応する。

- ソフトウェアを動かす環境変化に対応する。
- プログラムのミスに対応する。

ソフト保守業務は開発業務よりもはるかに大きくなってきています。

それでもソフト保守業務のあり方は、旧態依然で近代武装化されていないのです。

最も根源的な問題は、投資のあり方です。
公共事業の補修は「票にならないから」と不人気で後回しになることが大きな問題を発生させています。

ソフト保守も経営者の認識が間違っているために、なかなか保守業務の整備にお金が出なく、いつまでも旧態依然の状態から抜け出すことができないで結果的にお金がかかってしまっているのです。

世の中は変わっているのに、相変わらずの価値判断が大きなロスを招いているという事例です。

その次に大きな問題は、補修は適切な診断に基づいた補修工事を行えば、供用期間の延長にも補修工事費の削減にも貢献します。

ところが、適切な診断のできる技術者が少なく、大きなロスを招いているのです。

ソフト保守でも保守業務の改善のできる専門家がほとんどいなく、非効率なまま保守業務が遂行され時折社会を驚かせる障害を発生させています。

そこで、弊社と兄弟会社である㈱データ総研では保守業務改善のプロフェッショナルを育成する Sweeper 養成講座を継続開催しています。

しかし、前掲の予算問題で、この研修の集客は苦戦続きです。問題意識を共有いただける企業にご参加いただいて息をつないでいる状況です。

早く保守問題が経営者の関心事になり、保守業務がどんどん改善されていく日を鶴首している状態です。

372　保守業務にも「２０％ドクトリン」が必要！！

№60　2013 年 9 月

【このテーマの目的・ねらい】
目的
- 意図された余裕がビジネスの革新を生み出すという
- 主張「２０％ドクトリン」を知っていただく。
- ソフトウェア保守業務でも「２０％ドクトリン」の実行が必要だという主張を知っていただく。

ねらい
- ソフトウェア保守業務が革新されていくことを期待しましょう。

――――――――――――――――――――――――――――――――

「２０％ドクトリン」は書名です。
米国のライアンテイトという「ＷＩＲＥＤ」の記者が書いたものです。
私は「ＷＩＲＥＤ」を知りませんでした。
デジタル革命を引っ張って行こうとする雑誌のようです。

２０％ドクトリン自体はGoogleが設けた社内の非明示ルールで、「自分の勤務時間の２０％を好きなこと（の研究）に使え」というものです。
その成果として、Ｇメールやコンテンツ連動型広告アドセンスなど多くの新商品・新サービスがあるのだそうです。

自由な時間があると、ただし真剣に何かを生み出そうとする気がなければダメですが、素晴らしい考案がなされるという主張です。

著者が整理した「２０％ドクトリン」はこういうものです。

１）創造性を発揮する自由を与える

２）情熱を理解する
熱は奇跡を起こさせる原動力になる。

３）製品は悪いほうがよい
時間をかけて良いものにするより、ほどほどでスタートして多くの人の知恵を借りて良くしていった方がよい。

４）再利用する
一から作ろうとするのでなく既存の物を有効活用する。

５）素早いイテレーションを繰り返す
３）とつながる。

６）学んだ教訓を伝える
他の人を巻き込むためにそれが必要である。

７）部外者を取り込む
外部の知恵の導入で活性化する。

１）以外はあまり目新しさはないですね。

Google 以外の成功例も紹介されています。

「新しい時代のイノベータたちは誰もビジネススクールに行っていない、そういう知恵はイノベーションの足かせになる」という主張は面白いですね。
たしかにそのとおりだと思います。

少し違った領域ではニューヨークの廃校寸前の荒れた公立高校がジョアン・サリヴァンという校長の度量・裁量で６年間で規模を７倍にし有名校になった、という事例が紹介されています。

この中の逸話に興味深いものがありました。

新制度を取り入れた初日の登校日に１期生 79 人のうちのかなりの人数が支給された制服を着ないで登校してきた。サリヴァン校長は断固その人たちを追い返して制服に着替えさせた。
そうしたら､その次からは生徒たちは次第に学校の制度になじんできた、というものです。

ソフトウェア保守業務にも「２０％ドクトリン」の主張は当てはまります。

当社が改善に力を入れているソフトウェア保守業務は決められたルーチン業務をこなすのに精いっぱいで そのため、何年経っても低生産性の方法で業務が遂行されているのです。

そこで私は、

「保守業務をしている人たちに１０％の余裕を与えて業務の改善に取り組んでもらったらよい､そうするとその分は高生産性の実現によって元がとれるはずだ」

と主張しています。

ところが、「その投資は本当に報われるのか？」という疑心暗鬼に阻まれてその主張は日の目を見ていません。

「よしやってみよう！」という太っ腹が成功をＧＥＴするという本書の主張に保守業務の責任者・経営者は耳を傾けていただきたいですね。

373　菱食の「大魔神」廣田正様から教わること

№60　2013 年 9 月

【このテーマの目的・ねらい】
目的
１）悠々自適の最高モデルを知っていただく。
２）廣田様をご存じの方にはその近況をご報告させていただく。
３）廣田様の達観した先を見る目のコツを知っていただく。
ねらい
- 若い方には、悠々自適を目指して必死で頑張っていただきたい。

――――――――――――――――――――――――――――――――

８月２３日お昼に廣田正様に久々にお会いしてきました。

廣田正様は
旧菱食（現三菱食品）の社長・会長を１８年間なされ
同社の東証一部上場を実現し
同社を一流企業に導かれた大功労者でおられます。

大魔神という「尊称」はこれまで廣田様に対して使われたことがないでしょうが、たいへん失礼ながら長年の無配会社を日本一の食品流通企業に育て上げられましたのは大魔神にふさわしいご活躍だと思います。

私および弊社にはとても御恩をいただいたお客様がございますが、その最たるものが菱食様です。

廣田様は現時点では完全に三菱食品様からは引退なされ、この３月、鎌倉に「かまくら廣田オフィス」を開かれましたので、ご挨拶にお伺いしてきました。

因みに、廣田様は私のブログをご愛読いただいているようです

廣田様とは、私がプロの世界に入りました直後の昭和４５年からのご縁でございます。

同社には、業務改革、３回の大掛かりなシステム再構築、幹部強化プログラム（これがその後の当社の大ヒット商品ＭＩＮＤ－ＶＩＰになりました）、各種研修など、ずっとお世話になってまいりました。

その大半のお引き立て役が廣田様だったのです。

何年振りかでゆっくりお会いしましたが、ゆったりしたオフィスでまさに悠々自適をお楽しみのご様子でした。

鎌倉駅から５分ほどの距離にある１００坪ほどの土地に建てられている瀟洒なメゾネットタイプの建物の２階の一部が廣田オフィスです。

この手前に大きなテーブルが据えられた応接スペースがあります。廣田様は「カクシャク」という表現を超えたお元気さでした。

１階は事業をされているお嬢様のオフィス、
３階はサロン用のスペースとなっていました。

サロン用スペースは、ご本人・奥様・お嬢様のお仲間が集まる会等にご利用なさるようです。

ご購入された物件なのだそうですが、この建物には８戸ほどの賃貸住宅が接続されています。

「１ルームですか？」とお尋ねしましたら、その中は「ご覧になったことはない」のだそうです。我々貧乏人には想像できない「余裕」です。

お住まいはお隣駅の逗子で、奥様が時々出てこられて鎌倉観光をされて一緒に夕食をされるそうです。

悠々自適とはこういうことだろうと感心した次第です。

現時点では、１社の社外取締役をされておられる他はいくつかの研究会等に積極的に参加されていらっしゃるようです。

いつも「なるほど」というお言葉をいただくのですが、今回は関連業界の偉人たちのエピソードに加え、以下を伺いました。

企業が発展するための3原則

１．儲かる仕組みをつくる。経営者の責任
　良い仕組みとは、
　普通の人が普通に動いて成果が出る仕組みである。

２．儲かるルールを守る。社員の責任
　（上野補足・守らせるのも経営者の責任ですね）

３．儲かるための飽くなき執念を持つ。

（上野意見：そのとおり、安住は敵です。どこかの政党の「安定は希望です」はウソです。「安定は衰退の始まり」なのです）

このどこかが崩れると会社はダメになる、と言われました。そのとおりですね。

こういうお話も伺いました。

今は小売業界ナンバー１のＩ社のＯ社長が、あるナショナルブランドを菱食を通さずにメーカと直取引をしたいと相談に来られたことがありました。

当時の廣田社長はあっさり「結構です」と言われ、Ｏ社長がビックリして「どうしてですか」と聞かれたくらいだったそうです。

世の中の動きは最適を求めて動いていくので、自社の都合だけで賛否を表明すべきものではない、というお考えだったのです。

その回答にＯ社長は感心されてでしょう、その後、Ｉ社様向けの菱食殿のシェアはぐっと上がったそうです。

自社の短期的損得ではなく、世の中の動きを見て判断すべきというお考えは、１９９０年前後に食品流通業界を震撼させた「小分け対応」問題の時にも発揮されました。

これは何の問題かと言いますと、それまでは食品の流通はケース（箱）単位で行われていました。

ところが小売側では必ずしもすべてがケース単位で必要なのではありません。お店の保管スペースにも限界があります。

そこで、ある大手スーパーさんからケースではなく１個単位の注文を認めてくれという要求が出ました。

流通業界では、その「小分け」対応ができる設備・仕組みを持っていませんでしたので、そのスーパーさん向けに限定してその場しのぎの対応をしていました。

ニーズは他のスーパーも一緒ですから、小分けの要求は次第に広がりつつありました。

流通業界からしますと小分けには余分な手間ヒマがかかりますから、やりたくありません。
小売のエゴだなんて言っていました。

ところが廣田社長は、この要求は時代の流れに乗っていると判断され、業界に先んじた果敢な投資で小分け専用

のセンタをつくられました。

小分けの申し入れを断ったいくつかの食品問屋は、その後、シェアを落とし、大きな後退を余儀なくされました。

「世の中の動きを見ることが必要だということは誰もが分かっているが、どうしても自分の損得で考えてしまう」と廣田様は仰っています。

それが実践できることは凄いことですね。
自己の利益を離れて客観的に考える基はどこでできたかというお話も始めて伺いました。（これは内緒です）

廣田様は私より５歳年上ですが、人生の大成功者でいらっしゃいます。

その前で、まだまだ必死で頑張らなければならない自らの状況を対比させて見る機会を持つことができました。

日本のために頑張りましょう！！

374	放射線問題の決定版が出ました！
№60　2013 年 9 月	

【このテーマの目的・ねらい】
目的：
- 放射線の人体への影響に関する正論・異論を整理していただく。
- 低線量放射線は身体に良いことを再認識していただく。

ねらい：
- 早く福島の安全宣言を出して多くの人が故郷に帰れるようになっていただく。
- バカバカしくムダな除染を止めて税金の無駄使いをストップしていただく。

――――――――――――――――――――――――――――――――

渡部昇一さんと中村仁信先生の「原発安全宣言」という本が出ました。

渡部さんは、雑誌致知で低線量放射線が危険ではないこと、むしろ健康によいことを繰り返し主張されてきました。

私も当ブログで、何度もこのテーマについては触れています。

2011.6　「低放射線量は有益である」という証明
2011.7　低放射線量の有益性について：再論
2011.8　低放射線量の有益性について：再々論
2011.10　「放射能は怖い」のウソ
2012.3　放射線の被害を騒ぐのはやめてほしい！

中村先生は、「昔」国際放射線防護委員会（ＩＣＲＰ）の委員もされた放射線医学の権威なのだそうです。

「昔」というのは、１９７７年から４年間なのですが、最近のＩＣＲＰは放射線の安全基準やガイドがいい加減で私は「悪玉」評価をしています。

この「原発安全宣言」という書名は、名は体を表していません。

原発の安全を論じているのではなく、「低線量放射線安全宣言」か「福島原発事故周辺安全宣言」が妥当です。

それでは分かりにくいということでの出版社の思惑でこうなったのでしょう。

この本の内容を盟友茂木弘道氏が簡明かつ強力な要約をされていますので、私は手抜きをしてそのまま以下に転載させていただきます。

放射線・原発問題の決定版！
『原発安全宣言』（渡部昇一・中村仁信著）

福島原発事故以来、放射線問題は科学に基づく議論ではなく、放射能恐怖をあおる反核・反放射線ヒステリーに世が席巻されてきた。

放射線絶対悪、１ミリシーベルト以下の放射線量でなければならないなどという文字通りの迷信が跋扈してきた。

東大教授が涙を流して言おうとどうしようとこれは正真正銘の迷信である。

なぜなら、人はカリウム４０という放射性元素を体内に取り込んでいて、４０００ベクレルの内部被曝＝その外部放射を行っているのだ。

その放射線が無くなると生命は死滅する。
放射線のおかげで生きている人間が、放射線絶対悪をわめくなどということは造物主への反逆そのものである。

日本を代表する知の巨人というべき渡部昇一教授は、原発事故以来放射線問題に対する探求を幅広い見地から精力的に行い、世の誤った風潮に対する警鐘を鳴らしてきた。

放射線医学の権威である中村仁信元大阪大学教授は、国際放射線学会（ICRP）第３委員会員も務めた専門家である。

本書では、知の巨人と放射線医学の権威が、放射線問題の重要ポイントをあまさず論じている。
対談なので非常に分かりやすくなっているが、大事な点については、「解説」コラムで図表・データを示して説明されており、根拠が明確に示されている。「解説」は２６に及ぶ。

主な内容は次の通りである。

第１章；原発を止めた放射能恐怖
第２章：広島・長崎のデータを使わない反原発論者
第３章：国連はいっこくも早く「除染をやめよ」と警告している
第４章：これからの原発と代替エネルギー

特に第２章で主張されている広島・長崎のデータのことは重要である。
被曝生存者が２０万人以上おり、その追跡調査が可能なため、多くの内外の学者のよって追跡調査分析が行われてきたのである。

その結果が示すものは、瞬間被曝１００ミリシーベルト(時間当たりにすれば数倍以上になる)以下の場合、ガンをはじめ様々な障害は、一般人に比べむしろ少ないくらいで、決して多くはないことが確認されているのだ。

遺伝への影響にしてもニール博士の詳細な調査によってそれがないことが確証されている。

にも拘らず、１ミリシーベルトの除染だ、年間で５０ミリシーベルトにもならないのに子供への影響が心配だとか何とか脅されて未だに福島は避難解除がなされていないのである。

是非この書を多くの方々に読んでいただき、原発事故とその放射線問題の実際がどのようなものか知っていただきたい。

それを全ての政治家に伝えていただきたい。
マスコミにこの真実を取り上げさせるようにして頂きたいと願うものである。

『原発安全宣言』(渡部昇一・中村仁信著)(遊タイム出版)
(定価：１２００円)

平成２５年８月２５日
「史実を世界に発信する会」　茂木弘道拝

375　「南京事件」の総括です

№60　2013 年 9 月

【このテーマの目的・ねらい】
目的：
- 中国の厚顔無恥を確認していただく。
- 「南京大虐殺」の事実を再確認していただく。

ねらい：
- 何が真実なのか、疑ってかかりましょう。
- 中国の攻勢に備えましょう！！

――――――――――――――――――――――――――――――

今月の中国問題はこれだけです。

先月の中国問題特集についての多くの方の反応は、「大事な問題なことは分かるけれど、近寄りたくない、知りたくない」というものでした。

そのお気持ちは分かります。

ですが、避けて通れない阿部さんや自衛隊筋の方は本当にたいへんなのだろうと思います。
浮かれている場合ではないのです。

８月１９日に米国で行われた、米中の攻防相会議で、中国の国防相がぬけぬけと以下のような発言をしたことが、背筋が寒くなるような恐怖を感じます。

オバマ政権のアジア重視戦略に関して
「軍事的な側面が強調されている。中国は平和を愛する国であり、この戦略が特定の国を標的とするものではないことを望む」
「平和を愛する国である」と言うのです。
「自分に都合のいいことを言うのはウソを言っているということではなく当たり前のことだ」
という「避諱（ひき）」の価値観丸出しです。

注：避諱というのは、隠すという意味ですが、国家や家族のために不利なことは事実を曲げてでも隠さねばならない、それが正しいという中国人に植えつけられている考え方です。

したがって、ウソだと証明されてきている南京大虐殺だって決して取り下げません。

最近報道された中国のどこかの動物園の話も中国人の本質丸出しで笑えません。

「ライオン」と書いてある檻の中にいたのは犬
「狐」の檻の中にいたのも犬
「蛇」の檻の中にいたのは２匹のネズミ

この動物園は、ネットで評判になって当局の知るところとなり、営業停止になりました。

「なぜそんなことをしたのか」という質問に対して、
「檻の中に何もいないと寂しいから」と答えたそうです。
淡々としたものですね。
悪気はないという感じです。だから怖いのです。

８月２５日に「史実を世界に発信する会」のシンポジウムが開催されました。

その際に事務局長茂木弘道氏が講演された
「南京大虐殺はなかった」という総括資料を入手しましたので以下に全文紹介の形で掲載させていただきます。

このＵＲＬから、当日の投影資料をご覧ください。
http://www.newspt.co.jp/data/mailmaga/60_nankin.pdf

その解説原稿を以下に掲載させていたきます。
補足的にご覧いただければと思います。

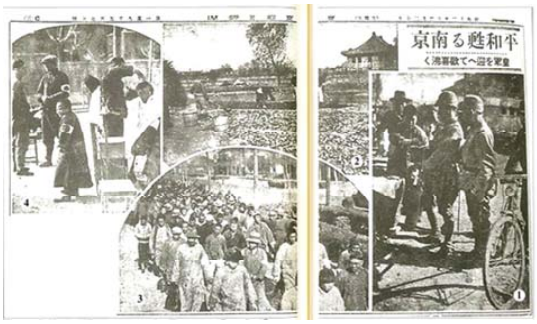
――――――――――――――――――――――――――――――

平成 25 年 8 月 25 日『「南京の真実」パネル展』講演会

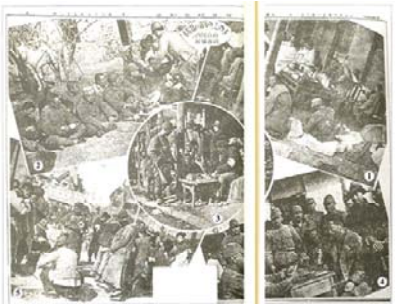
南京虐殺は中国国民党の戦時謀略宣伝である
「史実を世界に発信する会」事務局長　茂木弘道

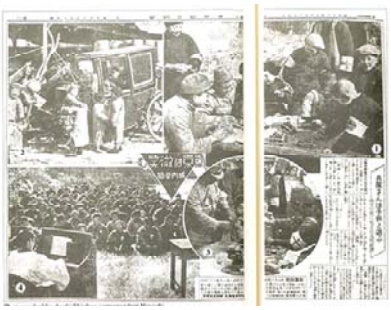
1.　「平和甦る南京」こそが日本軍入城後の実態だった
- １５０人の記者、カメラマンが伝えた南京

「平和甦る南京」東京朝日新聞（昭和 12 年 12 月 20 日号）
12 月 17 日河村特派員撮影



「昨日の敵に温情」東京朝日新聞（12 月 22 日号）
河村特派員撮影



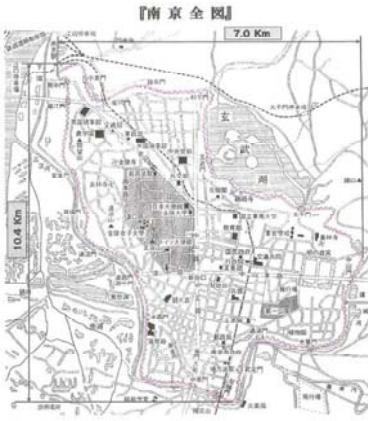


「南京はほほ笑む」朝日新聞（12 月 23 日号）
林特派員撮影

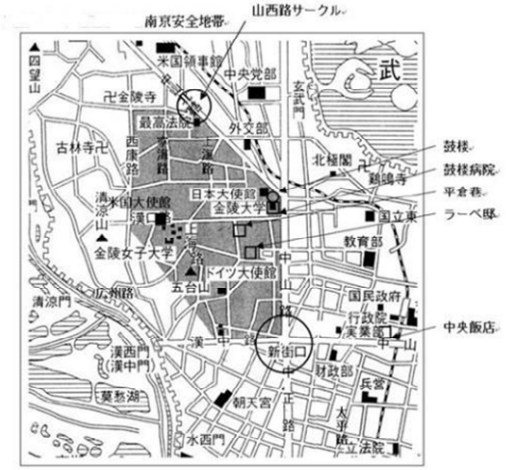
「日本軍兵士とおもちゃであそぶ子供たち」（12 月 20 日撮影）

「キャラメルをもらう子供たち」

2. 南京とは
- 全長３４キロに及ぶ城壁で囲まれている
- 城門は１３か所、ここを通らないと城内には入れない
- 面積は４０平方キロ（世田谷区の７０％、山手線の内側の６０％）
- 安全区がほぼ市の中心部におかれていた



3. 安全区に全住民が集まっていた
- 安全区の面積は３．９平方キロ＝ほぼ２キロ四方
- 防衛軍司令官唐生智の命令で住民は全員ここに集められた
- その数２０万
- 国際委員会の記録によると、１２月中ずっと２０万、１月１４日２５万に（減少ではなく、むしろ増加、厳密ではないがこれが国際委員会メンバーの共通認識であった）



4. 国際委員会の記録
- DocumentsoftheNankingSafetyZone
- 国際委員会のおよそ２カ月にわたる記録
- 日本軍の非行記録が載っているためか、国民政府の外交関係機関の監修で上海の Kerry&Walsh 社から出版
- しかし、非行記録は風評がほとんどで、目撃が少なく信頼性に欠ける。
- 殺人は２７件出てくるが、目撃のあるものは１件のみ。
- しかもそれは、合法的な殺害とわざわざ注記がある。
- いわゆる虐殺（不法殺害）は１件もないことになる。

5. あるはずのない南京虐殺→東京裁判で３０万虐殺の告発
- 基本資料は「南京地方院検察処敵人罪行調査委員会報告書」その正体は、序文にあり
  「進んで自発的に殺人の罪行を申告する者甚だ少なきのみならず、委員を派遣して訪問せしむる際においても
  “冬の蝉の如く”口を噤みて語らざる者、或は事実を否認する者、或は自己の体面を憚りて告知せざる者・・・等あり。」
- ところが、「種々探索・訪問の方法を講じ、数次に亙り行われたる結果、確定せる被殺害者は既に３０万に達し、この外尚未だ確証を得ざる者２０万を下らざる景況なり」と結論。
- これをベースに中国人、外国人の証言などによって１０万、２０万といった判決となった。
- 外国人証言、特にベイツ、マギー、フィッチなどの証言が大きな役割を果たし、架空の大殺害にあたかも信憑性があるかの印象を与えた。

6.　南京虐殺に疑似信憑性を与えた３つの柱

- ティンパーリ：マンチェスターガーディアン記者『戦争とは何か』を編集出版（イギリス、VictorGorants 社より）
- ニューヨークタイムズ（ダーディン記者）、シカゴデイリーニュース（スティール記者）の記事
- ベイツ：金陵大学教授、聖職者、安全区国際委員会の中心的活動家。

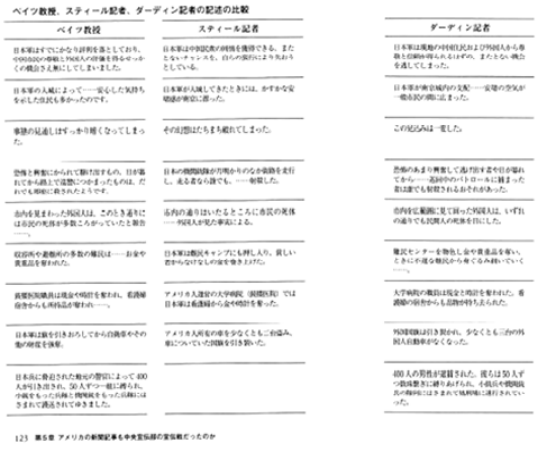
7.　柱の 1. ティンパーリは国民党宣伝部の工作員だった

- 『近代来華外国人名辞典』
  「ティンパーリ：１９３７年盧溝橋事件後、国民政府は彼を英米に派遣し、宣伝工作に当たらせ、ついで国民党中央宣伝部顧問に任命した。」
- 国際宣伝処長曽虚白自伝
  「我々は手始めに、金を使ってティンパーリ本人とティンパーリ経由でスマイスに依頼して日本軍の南京大虐殺目撃記録として２冊の本を書いてもらい、印刷して発行することを決定した。（『戦争とは何か』と『戦争被害調査』のこと）
  「われわれはティンパーリと相談して、彼に国際宣伝処の陰の責任者のなってもらうことになり、トランスパシフィックニュースサービスの名のもとにアメリカでニュースを流すことを決定した。」
- 国際謀略宣伝のキーマン、ティンパーリ TransPacificNewsService のアメリカ責任者にニセ写真をばらまき、ＡＰがこれを使ってしまい、ウソがばれて AP が謝罪した事件を TheLowdown 誌が伝えている。
- すでに戦前にニセ写真がばれていたことが分かる。

国民党の国際宣伝組織
国民党中央宣伝部国際宣伝処　処長　曽虚白
香港（温源寧）↓　上海（董霖彭）
トランス・パシフィック・ニュース・サービス
ロンドン（夏晋麟）　アメリカ責任者：H. ティンパーリ
ニューヨーク　シカゴ　サンフランシスコ
（アール・リーブ）（ヘンリー・エバンス）（マルコム・ロショルト）

8.　柱の 2. ニューヨークタイムズ、・シカゴ・デイリー・ニューズの記事

- 類似した両記事
- ニューヨークタイムズ：見出し「捕虜全員殺害、市民も殺害、南京に広がる日本軍の恐怖、陥落後の特徴は屠殺」「日本軍は南京で大規模な残虐行為と蛮行をおかしたことにより南京住民や外国人から尊敬と信頼を克ちうる又とない機会を失ってしまった。」
- シカゴ・デイリー・ニューズ：「日本軍は中国民衆の同情を獲得できる、又とないチャンスを、自らの蛮行によって失おうとしている。・・・日本軍の機関銃隊が月明かりの中街路を走行し、走るものならだれでも…射殺した。」
- ダーディンもスティールも１５日には南京を離れているので、自分の目で見たこととは思われない。（理由は後で見るようにベイツ・メモにあった）


ベイツ教授、スティール記者、ダーディン記者の記述の比較

ベイツ教授	スティール記者	ダーディン記者
日本軍はすでにかなり評判を落としており、中国民衆の尊敬と同情を得るチャンスを一度ならず失ってしまいました。	日本軍は中国民衆の同情を獲得できる、また又ないチャンスを、自らの蛮行によって失おうとしている。	日本軍は規律の厳格さ、および国民から寄せられる尊敬と信頼を得るはずの、また又とない機会を逃してしまった。
日本軍の入城によって一安心した気持ちがこと出来るかどうかです。	日本軍が入城してきたときには、かすかな安堵感が南京に漂った。	日本軍が南京城内の支配――安寧の雰囲気が一般市民の間に広まった。
事態の見通しはすっかり暗くなってしまった。	その見通しはたちまち崩れてしまった。	この見方は一変した。
恐怖と興奮にかられて駆け出すもの、日が暮れてから路上で遭遇につかまったものは、だれでも殺害に処されたようです。	日本の機関銃隊が万明かりの公々然路を走行し、走るものならば誰でも…射殺した。	恐怖のあまり興奮して逃げ出す者や引き留められてから――巡回中のパトロールに捕まった者は誰でも射殺されるおそれがあった。
市内を見まわった外国人は、このとき通りには市民の死体が多数ころがっていたと報告――。	市内の通りはいたるところに市民の死体――外国人が見た事実による。	市内を見回った外国人は、いずれの通りでも民間人の死体を目にした。
収容所や避難所の多数の婦人は――お金や貴重品を奪われた。	日本軍は難民キャンプに乗り込み、貴いものからなけなしの金を巻き上げた。	難民センターを物色し金や貴重品を奪い、ときに中流な婦人からも――。
貴重品類は現金や時計を奪われ、看護婦自身からも時計品が奪われ――。	アメリカ人経営の大学病院（鼓楼医院）では日本軍は看護婦から金や時計を奪った。	大学病院の職員は現金と時計を奪われた。看護婦の別からも腕時計を奪られた。
日本軍は銃を引き抜かりしてから自動車やその他の財産を強奪。	アメリカ人所有の車を分乗するとこに由緒、車についていた国旗を引き剥いた。	外国旗は引き剥かれ、少なくとも三台の外国人自動車が奪くなった。
日本兵に尊敬された戦場の警官によって400人が引き出され、50人ずつ一組に縛られ、小銃をもった兵隊と機関銃をもった兵隊にはさまれて銃殺されてゆきました。		400人の男性が連行された。彼らは50人ずつ数珠繋ぎに縛りあげられ、小銃兵や機関銃兵の間にはさまれて処刑場に連行されていった。

123　第5章　アメリカの新聞記事も中央宣伝部の宣伝戦だったのか

9.　柱の 3. ベイツの正体

- 国民政府顧問であることが、エール大学所蔵の南京関係文書から明らかとなった。（東中野教授が新聞切り抜きを発見）
- 国民政府から戦前、戦後の２回叙勲を受けていた。

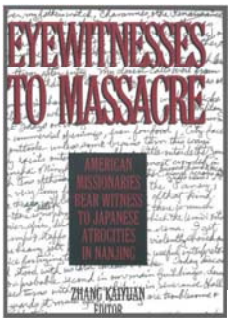
10. 希代のウソつきベイツ

- 工作員ティンパーリに送った南京情報は国際委員会文書＋ねつ造文書で、国民政府に協力するためのものだった。
- 国際委員会文書では、最大でも殺人は２７件であったが、ベイツは紅卍会埋葬報告書（遺棄死体の埋葬）４万のうち３０％の１万２千は市民のものだという、およそかけ離れた数字を何の根拠もなく書き送った。
- これが東京裁判でベイツの虐殺証言となった。
- １２月１５日、南京を離れる記者たちに全くの捏造文書を渡していた。
- 「２日もすると、度重なる殺人、大規模で半ば計画的な略奪、婦女暴行をも含む家庭生活の勝手きわまる妨害などによって、事態の見通しはすっかり暗くなってしまった。
- 市内を見回った外国人は、この時、通りには市民の死体が多数転がっていたと報告しています。・・・死亡した市民の大部分は、１３日の午後と夜、つまり日本軍が侵入してきたときに射殺されたりしたものでしょう。」

11. 同僚、同宿のスマイス（金陵大学教授、国際委員会事務局長）の家族への手紙と全く矛盾する内容

- 「12 月 13 日（月曜日朝）宿舎へ帰る途中、午後 1 時に日本兵が漢中路に到達しているのを見つけた。
- 我々は車でそこへ行き、約６名の小さな分遣隊に会った。
- それが最初だったが最後ではなかったのだ。
- 上海路と漢中路の交差する角で、彼らはバスを調べたが、人々を傷つけることはなかった。」

- 「１４日火曜日の朝。我々は目覚めて戦いは終わったと感じていた。・・・今は日本兵がいる。
- 秩序ある体制と順調な事態が作られて、状況はバラ色になるだろう。」≪もし、度重なる殺人などが行われていたとして、当然発砲音けたたましい中でこんな感じ方をして、家族に書き送るだろうか？≫



- ≪そもそも、安全区担当の第７連隊第１、第２大隊は１３日午後は掃討作戦をせず、夜間に安全区を視察した後、市の東南部に宿泊している。１３日には発砲など全くしていない。ベイツの言ってることは全てウソである。≫

12．結論
- １．『戦争とは何か』（ティンパーリ）の主たる情報源は、ベイツであった。
- フィッチ（ＹＭＣＡ主事で根っからの反日運動家）の捏造記事がこれに加わった。
- ２、ニューヨークタイムズ、シガゴデイリ―ニュースなどの情報源もベイツであった。
- 『戦争とは何か』の出版予告の手紙「諸友宛」「その本には１２月１５日の南京を離れようとした様々な特派員に利用してもらおうと私が準備した声明が掲載されています。」
- ３、東京裁判での架空の民間人虐殺１万２千の証言によって、南京虐殺を裏付ける役割を果す。

13．国民党中央宣伝部国際宣伝処の宣伝工作（中央宣伝部国際宣伝処工作概要より）
- 目的：中国にいる敵軍、敵国内の人民、および世界各地に居住する敵国の人間に対して、幅広く敵の軍閥の残虐なことを宣伝する。
- 方法：　中央宣伝部が決して表に出ることなく、国際友人を使って行う。
- ベイツ（国民政府顧問）、ティンパーリ（国際宣伝処顧問）、そして国際友人フィッチを主な協力者として仕立てた対日戦時謀略宣伝、これが南京虐殺の本質であった。

14．ティンパーリに騙された人々
- １．松本重治（同盟通信上海支社長）
- ２．日高信六郎（上海総領事館、参事官）
- ３．宇都宮直賢少佐（上海派遣軍司令部付軍特務部、情報担当）
- いずれも、「正義感の強い中立的なジャーナリスト」と信じ込み、『戦争とは何か』の意図を察知できず。

＊ティンパーリの流した情報、国際委員会情報に影響された人々
- 外務省（石射東亜局長、岡崎久彦等）
- 陸軍（加登川幸太郎『偕行』元編集長等）

15．歴史学者、歴史家、政府、マスコミ
- 謀略宣伝の捏造情報を批判するのではなく、擁護、合理化、正当化し、歴史偽造をする「歴史学者」「歴史家」たち
- 例：洞富雄、藤原彰、笠原十九司、吉田裕、他
- そして歴史学会の大部分の人たち
- こんなウソの歴史学会の考えを受け入れ、教科書に載せる文部科学省の愚かさそれを全く批判しないばかりか、援護、支持するマスコミ

≪「真実」が取り戻されなければならない≫

376	渡部昇一さんの意見はどうなっているのでしょう？？
№60　2013 年 9 月	

【このテーマの目的・ねらい】
目的：
- 渡部昇一さんの「国難」問題に対するご意見を確認していただく。
- あらためて日本で何が問題なのかを考えていただく。

ねらい：
- 日本の「国難」についてもっと関心を持っていただく。
- 日本の「国難」についてもっと深く研究していただく。

――――――――――――――――――――――――――――

渡部昇一さんの著書をご紹介したついでに、渡部さんのご意見を整理して見ようと思い立ちました。

私は、雑誌「致知」を渡部さんの意見を読みたくて購読しているようなものです。あと、たまに登場する櫻井よし子さんのファンでもあります。

この 1 年間に渡部昇一さんが取り上げたテーマと発言趣旨は以下のとおりです。

これを改めて確認してみますと、現在の日本は「国難」だらけです。眠っている国民は早く目覚めて自分を含めてもっと行動しないといけません。

最近1年間の渡部昇一さんの発言（於：致知）

号	テーマ	内容
2012.10	日米同盟関係	民主党政権の国防意識の欠如のせいで重要な関係が棄損されている。 周辺国がそこに付け込んでいる。
	原発	自己の全責任を引き受けようとする東電の態度は問題あり（上野注：漸く最近汚染水漏れを国の責任で対応しようとし始めている）。
	原発の被害	原発の被害（強制避難、食品の規制など）は国が作りだしたものだ。国が責任を持つべきだ。
2012.11	領土問題	日本は舐められている。北方四島、竹島、尖閣いずれも日本固有の領土である根拠は明白である。歴史認識確立のために東京裁判のパル判決書を学ぼう。
	中国	中国では政治的利益が歴史認識を形成する。 「相手は帝国主義国家と思え」
2012.12	中国	領土問題は歴史的に明晰である。 中国はダメモト主義である。 中国の政権は崩壊するかも。
	日本の政治	立て直しが必要だ（総選挙に期待。
2013.1	政治のあり方	日米関係を立て直す必要がある

	原発	原発は必要。 原発事故の被害は政府の誤施策の結果だ。
2013.2	**原発**	早急に原発の運転再開をすべき。
	日米同盟の再構築	集団的自衛権を確立し連携を深めよ。
	公共事業で経済活性化	メンテナンスを重視して。
2013.3	**エネルギー問題の重要性**	歴史を作るのはエネルギーである。
	原発事故	福島原発事故の人体への影響はない。 強制立ち退きや除染は愚の骨頂
2013.4	**新政権への期待**	安倍政権に期待。
	憲法	今の憲法を破棄して明治憲法に戻れ。
	鳩山元首相	国賊には落とし前をつけよ。
2013.5	**別対談のため休稿**	
2013.6	**歴史教科書**	日本を悪者にする変更教科書を正せ。
	放射線問題	戦後の「長崎の鐘」の永井博士は放射線の正しい理解をしていた。 政府は早く正しい理解をして強制避難を解除せよ。
2013.7	**原発**	脱原発の意義は分かっているのか。 地震学者の言い分は当てにならない。
	原発	日本の原発技術は世界に認められている。
	靖国参拝	靖国参拝は宗教問題である。中国・韓国の内政干渉を排除せよ。 安倍総理の発言は正しい。
2013.8	**慰安婦問題**	従軍慰安婦の存在を示す証拠は何もない その存在を認めた河野洋平氏から桐花大勲章をはく奪せよ
	沖縄の集団自決	これは軍の命令だったとする大江健三郎の「沖縄ノート」はでっち上げである。
2013.9	**慰安婦問題**	「朴大統領！あなたのお父さんはそのことについて何も言っていないのですよ（その時はそういう話はなかったのです）」
	鳩山元首相	その言動には「開いた口がふさがらない」 何らかの形で裁くべきだ
	中国	中国政府は軍の暴発に怯えている
	子宮頚がん	ワクチン接種より性道徳の強化を！
	がん治療	近藤医師の「医者に殺されない４７の心得」を紹介
	歴史の教訓	歴史には謙虚に学ばなければならない

こうして見ますと、マネをしているつもりはないのですが私のブログの意見はほとんど渡部さんの意見と同じです。

私のまったくの守備範囲外は、９月号の子宮頚がんです。こうしてみると渡部さんの関心領域はずい分広いですね。「知の巨人」と言われるだけのことはあります。

取りあげられているテーマの順は以下のとおりです。

- 原発・エネルギー問題 ····· 5
- 中国問題・領土問題 ····· 4
- 日米同盟関係 ····· 3
- 原発事故の被害 ····· 3
- 韓国慰安婦問題 ····· 2
- 鳩山元総理の責任 ····· 2

鳩山氏については、よほど頭に来ておられるのでしょう。２度取り上げておられます。

私のブログでは取りあげていない靖国問題について致知2013年７月号の記事を以下にご紹介します。

――靖国参拝は宗教問題である――

靖国神社の春季例大祭に麻生副首相など３閣僚が参拝したのに続いて、国会議員１６８人が大挙して参拝したニュースは記憶に新しいと思います。

案の定というべきか、中国と韓国が即座に反発してきました。注目すべきは安倍首相の発言です。

衆院予算委員会で、
「国のために尊い命を落とした英霊に対して尊崇の念を表すのは当たり前だ。閣僚はどんな脅かしにも屈しない。その自由は確保していく」

と毅然として内政干渉をはねのけました。

厳然とした日本のトップの発言に胸がすく思いがしたのは、私だけではないでしょう。

この首相発言はもちろん評価に値します。
ただ、それについて一つ言い添えれば靖国について論議する場合、きちんと押さえておかなくてはならない重要なポイントがあります。

これはどこまでも宗教問題であるという点です。

ヨーロッパにおける３０年戦争（1618～1648 年）を終結させたウェストファリア条約があります。

３０年戦争は、プロテスタントとカトリックの宗教戦争です。その条約締結以来、先進国の間では政治問題に宗教をからめてはならないことが決まりました。

これは４００年近く経ったいまも国際社会の鉄則です。

アメリカのブッシュ前大統領がイラクに軍を派遣した時、テロ行為は激しく批判しつつも、イスラム教それ自体については一言も批判しなかったのはそのためです。

日本の神道はキリスト教よりも歴史のある宗教です。大自然や先祖を崇拝し明き（あかき）清き心を説く神道は、日

本に入ってきた仏教や儒教、キリスト教を見事に取り入れ、和合させ、日本独自の精神風土を築きあげました。

そこには､テロや破壊などという発想はいささかもありません。靖国神社もまた戦死者の霊を祭る神聖な場所です。

そこに参拝するのに文句を言われる筋合いなどまったくないのです。

安倍首相にはできれば今回の委員会での答弁で､これは宗教問題である旨、はっきり明言してもらいたいものでした。

今後､靖国参拝になお反発してくる国があるとしたら､それらの国を名指しして、
「宗教問題に口出しをしないのは先進国の常識です。
それができない国は先進国に値しない」
くらいのことをはっきり言ってあげたらいいのです。

その上で､いずれ天皇陛下が参拝されるための道筋をつけていくべきでしょう。

それが過去の戦争で亡くなった人々への何よりの供養､慰霊となるはずです。

靖国参拝がこじれた時､政府がすぐに「それは宗教問題である」と断じれば、良識ある世界の国々では
「そうか、宗教問題には口出ししてはいけないな」
と納得します。

世界の世論を味方につけるだけでも､靖国問題は解決に向けて大きく前進するでしょう。
答えは極めてシンプルなのです。

私は未だに外務省がそれを言おうとしないのが不思議でなりません。

そうなのですか。たいへん勉強になりました。

377	今年の夏休みの成果は？
№60	2013 年 9 月

【このテーマの目的・ねらい】
目的
- ちょっと休憩していただきます。
- ＤＩＹに関心ある方には読んでいただきます。
- 私の現在の「恋人」を見ていただきます。

ねらい
- 何もないですね。

――――――――――――――――――――――――――――――――

今年の夏休みも出かけることはなく、家と家周辺の手入れをしました。

1.　まずはトタン屋根の塗装をしました。

我が家の本棟は瓦ぶきですが、２回の増築部分はトタンです。

雨樋の不具合を直そうと屋根に上がったときに、トタン屋根が錆びている部分があることに気が付きました。

１回目の増築部分は４０年前に我が家がここに住み出した時のものです。

２回目の増築部分は、息子が独立の部屋を持ちたいと言った３０年前のものです。

塗る苦労よりも落ちない心配の方が大きい作業でした。
しかし作業は楽でした。
誰も見ない部分ですから美しい仕上げは関係なしです。
これなら素人ができる作業です。

手前の少し見えている３角形の部分が２回目の増築部分

手前の２回目の増築部分は錆びていた桟部分のみ塗装

2.　次は、我が家の横に接している路地の舗装修復です。

この路地は３軒が利用しているものですが、いろいろな工事等でつぎはぎで、隙間からは雑草が生い茂るという状況でした。

基本的には「いいじゃないか､他人のところだから」なのですが、気になっていて舗装の補修をしました。

平均で幅半間強､奥行きが６間位のスペースです。
たっぷりセメントを使えばきれいに仕上がるのですが､少しケチりましたのででこぼこが残っています。

材料費は、３０００円位のものでした。労力はボランティアです。

それでも１番奥のご家庭からスーパードライを１ケースいただきました。全体の材料費を超えたお礼でした。
やはり喜んでいただければ嬉しいですね。

3.　西側の茶色木部の塗装

２年前に塗ったものですが、西日カンカンで、はがれてきていました。

これは、我が家の西面の一部です。
2階の3か所の桟と1階の出窓覆い？の茶色の部分を塗ったのです。この2階の屋根の左端が、上記1．で述べた修繕した雨樋です。

4．**ガレージの屋根骨組み部分の塗装**

これも錆びかけていました。この経過年数も３０年以上です。合金類は結構もつものなのですね。

この作業は楽なものでした。

おまけが一つです。

最近の私の楽しみは孫娘に「遊んでもらう」ことです。
夏の恒例行事で、家の前にプールを作ってはしゃいでもらっています。

可愛いでしょう？？

378	「はだしのゲン」は何が問題になっている？？
№60	2013年9月

【このテーマの目的・ねらい】
目的
- 「はだしのゲン」問題の本質を知っていただく。
- 当問題の本来の解決方向を考えていただく。
- 形式的建前論の無益さを感じていただく。

ねらい
- 問題が生じた場合の検討に役立てていただく。

――――――――――――――――――――――――――――――

「はだしのゲン」が問題になっています。
これまで、私は「はだしのゲン」のことを知りませんでした。
「洗濯やケンちゃん」なら知っているけれど、くらいの認識でした。
――多くの方には「ケンちゃん」は意味不明でしょう？

「はだしのゲン」は、中沢啓治さんという漫画家がご自分の被爆体験を基に書かれた漫画です。

原爆の悲惨さ、原爆がいかに多くの人命を損ない、多くの人の人生を変えてしまったか、を訴えたものです。

今回の問題の発端は
その漫画シリーズ本を松江市の学校の図書室が松江市の教育委員会の意向（「通達」）に従って、閉架措置（オープン書架から引き揚げる）をしたということです。

読みたい人は申請をしないと読めなくなりました。

この措置に対して、「左寄り」の先生たちからクレームが出て8月26日に開かれた松江市教育委員の臨時会議で「この『通達』は正規の教育委員会の手続きを経ずに事務局が勝手に出したものである」
という手続き不備でこの通達を全面撤回しました。

しかし、この事務局からの「通達」は一部父兄からの「『はだしのゲン』の描写は過激で教育上問題がある」という意見に基づいていたものです。

日本図書館協会は、この閉架措置を批判して、8月22日に以下の「要望」を公表しました。

「松江市教育委員会による閉架措置は
1979年の「図書館の自由に関する宣言」に違反している。
同宣言では国民の知る自由を保障することを図書館の最も基本的な任務と位置づけ、図書館利用の公平な権利を年齢等の条件によって差別してはならないこと。
また、ある種の資料を特別扱いしたり、書架から撤去するなどの処置が禁止されている」

というのです。

つまり、「見せるな」「見せろ」を争っているのです。

「見せるな」派の主張は、
1．死の描写が過激で小さな子供にはショックを与える。
2．日本兵が残虐な殺戮をしたこと、激しい強姦や女性の局部に一升瓶を突っ込んで死に至らしめるなど問題のシーンがある。

これらの多くは史実に基づいていないので、誤った歴史観を子供たちに与える可能性がある。
というものです。

これは妥当な意見ではありませんか？
一般の雑誌の売り場だって成人向けというコーナーがあって子供が見られなくしています。

図書館協会の主張は原則論を振りかざしているだけで、現実を踏まえていない建前論です。
こんな建前論に屈してはいけません。

実は、この辺の情報は Wikipedia で得たものなのですが、そのレポートを読んでみて分かったことがあります。

因みに、今の Wikipedia は大したものです。
私が当ブログを書くに当って知りたいと思う基本情報はほとんど得ることができます。

「はだしのゲン」は全８巻あるのですが、前４巻は、原爆批判の正当なアピールであるようです。

ところが、かなり過激な面もあったために、少年ジャンプが継続を拒否して、作家の中沢さんは掲載誌探しに苦労されました。

その結果、見つかった掲載誌は左派系誌で、そのため、内容が左派系に偏ってしまいました。
それと、読書の関心を引くためにかなりどぎつい内容・描写をし出したようです。

そこで、本件のあるべき措置は、私が得意な目的論で考えると、以下のようになるのではないでしょうか。

【本件処置の目的】
１．原爆の悲惨さを生徒たちにも知ってもらいたい。
２．それと関係のない残虐なシーンは生徒たちに見せたくない。

【解決の方向】
「はだしのゲン」１本で論ずるのではなく、前半分と後半分を分けて論ずる。

前半は反原爆の主張として自由な閲覧を認め若干死の描写が厳しいことは、若い人を含めた読者に受け入れていただく。

しかし後半は反原爆の主張とも関係がないし、それであれば、そもそもそのような過激な漫画本は学校の図書館に置かないでしょう。
即刻廃棄処分をすべきです。

いかがでしょうか？
これがあるべき姿だと思われませんか？